

みんなの健康ラジオ

『IVRのご紹介』

(2023年9月21日放送)

横浜放射線医会

神奈川県立がんセンター

小嶋 大地

IVRでできること

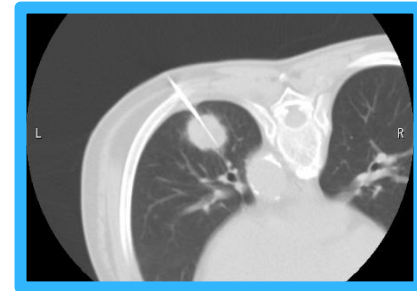
～ほんの一例～

- 「注入する」 動注化学療法、腹腔神経ブロック
- 「詰める」 出血や大ケガの止血、動静脈奇形の治療
- 「広げる」 動脈硬化に対するステント留置術、胆管ステント
- 「つなぐ」 胃瘻や腎瘻、腹腔-静脈シャント造設術
- 「除去する」 脳血栓回収、下大静脈フィルター
- 「焼く」 肝細胞癌などのラジオ波焼灼
- 「凍らせる」 腎癌の凍結治療
- 「採取する」 針生検、静脈サンプリング
- 「固める」 椎体骨セメント固定術
- 「中身を引く」 膿瘍ドレナージ、イレウス管

針のIVR

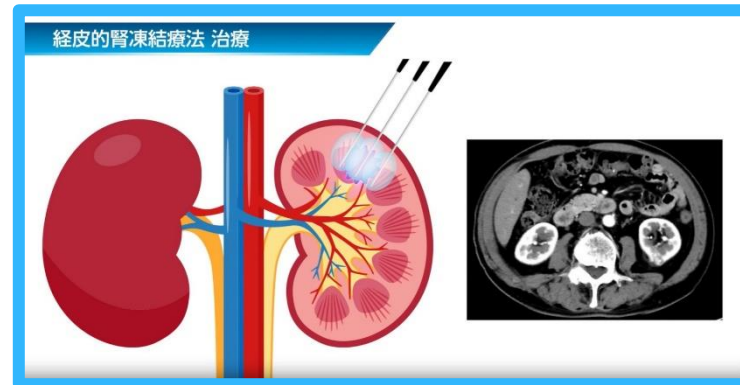
- 全身の針生検

ほとんどどこからでも
腫瘍組織を採取できます。
診断のための第一歩。



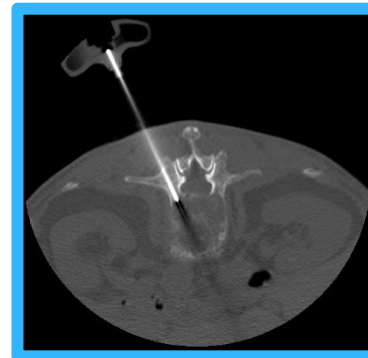
- 腎がん凍結治療

氷を作る針で腎がんを壊死させ、
治療します。



- 骨セメント治療

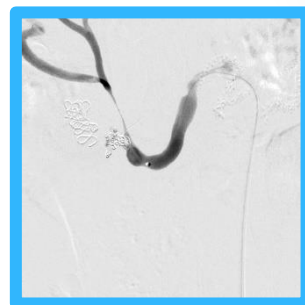
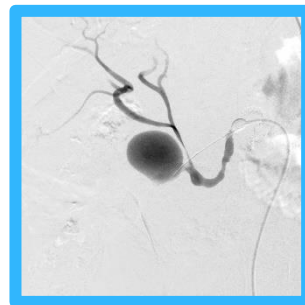
圧迫骨折している椎骨に針を刺し、
セメントを注入して固めます。



カテーテルのIVR

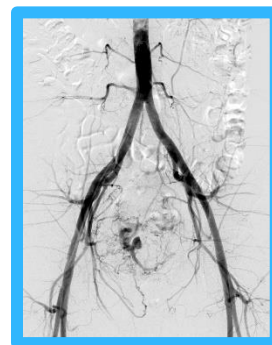
- 動脈瘤の治療

手術の後、炎症のために動脈瘤ができています。
カテーテルでコイルを詰めて治療しました。
詰めたあとも、隣の動脈は温存されています。



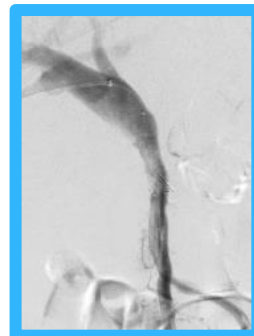
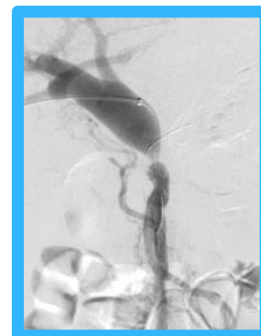
- 腫瘍塞栓術

骨盤内にできた腫瘍に対し、ビーズという
球状の塞栓物質を使って詰めています。
腫瘍の縮小効果があります。



- 門脈ステント留置

肝臓の特別な静脈である門脈が狭窄すると、
様々な有害事象が起こります。
細くなった血管を広げ、ステントを入れました。



痛みに寄り添える治療

- 体の負担が小さい治療法は入院期間の短縮につながり、これからの社会に必要とされる治療です。
- 日本では1980年以降に大きく発達。世界をリードできる治療もあります。
- 道具の改良・開発が大きく影響する分野であり、今後も、もっと発展することでしょう。
- IVRという選択肢があることを覚えておいてください。